

わ
が
市

三 浦 市

市の環境森林
行政について

三浦市は、神奈川県南東部にあり、東京湾と相模湾を分ける三浦半島の突端に位置しています。本市の総面積は、3,144 ha。42・9 kmの海岸線と市面積の約5分の1におよぶ622 haの森林があり、海と豊かな森林環境に恵まれた気候温暖なまちです。市の基幹産業は、農業・漁業と観光です。林

業については昭和50年頃までありましたが、現在はありません。

また、城ヶ島や油壺などに、1年を通して多くの観光客が訪れます。特に夏季には県内有数の海水浴場である三浦海岸が多く、海水浴客で賑わいます。本市の名産である新鮮な野菜や魚の加工品等も多くの観光客の方々に喜ばれています。

三浦市の地域森林計画は、「人・まち・自然」の3大資源が持つ価値を活かし、あい、住み心地のよい、潤いと安らぎを感じるまちづくりの重要な構成要素となるよう、森林整備に努めることをテーマとしています。

本市の地域森林計画の対象となる森



北東方面から小網代の森を俯瞰

林は民有林503 haです。森林は、ありのままに置くのではなく、人の手を適切に入れながら、守り、活用することが必要です。

森林には生育地によって、土砂の流出・崩壊防止や水資源のかん養、生活環境の保全など様々な役割があります。本市の森林もその重要な役割を担っています。その中でも、市街地周辺の里山林や都市近郊林は、森林づくりの実践の場として活用を図っています。

本市の代表的な森林である「小網代の森」は、面積約70 ha、河口干潟と集水域の森林が残る市内最大の斜面林です。平成17年に首都圏においては、昭和48年の指定以来32年ぶり19区域目の近郊緑地保全区域として新規指定され、「小網代の森」区域は、首都圏近郊における貴重な大規模緑地であり、地域住民の環境保全活動を背景として、決まりを守りながら自然観察等が行われている場所となっています。また、関東地方では唯一、「浦の川」という小川と一帯の湿地の水系を軸に、森林、湿地、干潟及び海が自然状態でまとまって完結した集水域であり、オオカヤサラサヤシマ（トンボ）などの希少種を含む約1,300種の多様な動植物種が生息生育する等、良好な自然環境が形成されています。また、アカテガニの生態を観察することができる場所としても広く知られています。

その他の森林は、市内各所に点在し



南西方面から小網代の森を俯瞰

ており、潮害防止や土砂流出防止、海風を防ぐなどの生活環境を保全する約130箇所、計約22 haの保安林が市街地に隣接しています。また、地域の景観を保全する都市近郊林があり、市民の憩いの場となるとともに自然と共生する都市を目指している三浦市にふさわしい景観を保っています。

本市は、このような貴重な森林資源を抱えるまちとして、これからもボランティアアグループの人々と協力しながら環境保全に努めると共に、地域住民参加による雑木林整備や森林資源の効果的な利用を進め、様々な人々の知恵や力にあふれた元気なまちづくりを進めていきます。